

# 国語科 学習指導案

東大阪市立弥刀小学校  
指導者 大浦 実知子

1. 日 時 令和6年11月14日（木）第5時限 14:15～15:00
2. 場 所 第2学年1組教室
3. 学年・組 第2学年1組（21名）
4. 単元名 かんそうをつたえ合おう「お手紙」（東京書籍・二年下）
5. 単元の目標

(1) 文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。

[知識及び技能] (1) カ

(2) 語のまとまりや、言葉の響きに気をつけて音読することができる。

[知識及び技能] (1) ク

(3) 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。

[思考力、判断力、表現力等] C (1) エ

(4) 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想を持つことができる。

[思考力、判断力、表現力等] C (1) オ

(5) 進んで物語の人物の気持ちについて想像を広げ、物語を読んで持った感想を伝え合おうとする。

「学びに向かう力、人間性等」

## 6. 本単元で取り組む言語活動

がまくんとかえるくんの気持ちを想像することで、感じたことや思ったことなど物語を読んだ感想を伝え合う。

## 7. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①文の中における主語と述語との関係に気づいている。(1)カ ②語のまとまりや、言葉の響きに気をつけて音読している。(1)ク	①「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。C(1)エ ②「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想を持っている。C(1)オ	進んで物語の人物の様子を想像し、感想を伝え合おうとしている。

## 8. 指導にあたって

### (1) 児童観

省略

省略

## (2) 教材観

本教材は、アーノルド＝ローベル作の『ふたりはなかよし』シリーズの中の1つの話であり、児童にとって身近な生き物であるかえるやかたつむりなどを登場人物にした物語である。

『お手紙』は、がまくんとかえるくんの二人の登場人物の関係が、会話文中心に描かれた作品となっている。「だれも、ぼくにお手紙なんかくれたことがないんだ。」というがまくんにとって、お手紙を待つ時間は一日の中でとてもかなしい時間であり、ふしあわせな気持ちになってしまっていた。そんながまくんの気持ちを聞いたかえるくんは、何も言わず、二人一緒に悲しい気分で玄関に腰を下ろす。そしてかえるくんは、そんながまくんの悲しい気持ちを汲み取り、お手紙を出そうと思いつく。お手紙を書くため、「ぼく、もう家へ帰らなくっちゃ。しなくちゃいけないことがあるんだ。」

と大いそぎで家に帰る様子からは、かえるくんの、友だち思いのやさしさが感じられる。そして「今まで、だれもお手紙くれなかったんだぜ。今日だって、同じだろうよ。」とお手紙を待つこともあきらめているがまくんに、かえるくんは「きっと来るよ。」「だって、ぼくが、きみにお手紙出したんだもの。」と伝える。かえるくんからのお手紙が届くことを知ったがまくんとかえるくんは、とても幸せな気持ちでそこにすわっているのである。かたつむりくんが運んでくれるお手紙を四日まち、受け取った二人はとても喜ぶ。

物語を読み進めていくと、登場人物の様子が会話文や挿絵から具体的に想像することができると考えられる。子どもたちは、「もし自分ががまくんだったら・・・」「もし自分がかえるくんだったら・・・」というように、自分ならどう感じるか、どう行動するかを考えて読むだろう。子どもたちにとっては、学級の友だちが一番身近な存在と言える。その友だちが悲しい気持ちになっていたら・・・と自分の体験や経験とつなげて考えてもらいたい。そして、がまくんが手紙を受け取る幸せだけでなく、かえるくんのやさしさに気づき、かえるくんという友だちがいることに幸せを感じたように、大切な友だちを思いやる心の交流とその温かさを子どもたちには共感をもって読み取ってほしい。そして、あらためて「友だちっていいな」と感じてもらいたい。

2年生の教科書には、「読むこと」の領域の教材として、『お手紙』の他に、『風のゆうびんやさん』『名前をみてちょうだい』『ニャーゴ』『かさこじぞう』が掲載されている。子どもたちはその中で、場面を分け、想像を広げながら読むという学習を進めてきた。本単元の学習もそれら螺旋的な学習の延長線上に位置づくと考え。これまでの既習事項も振り返りながら、本単元においては、がまくんとかえるくんの二人の行動や、会話に着目することで物語のもつあたたかい空気感を十分に味わってもらいたい。

また、本作では二人の友情の象徴として、手紙が描かれている。子どもたちには、これまでの経験で手紙をもらったり送ったりした時の気持ちを思い出し、登場人物と自らの体験を結び付けながら読み進めることのできる教材だと考える。

### (3) 指導観

本単元の重点目標は、(3)「場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。」としている。そして、「物語を読んだ感想を伝え合う」という言語活動の設定のもと、本教材を通してつけたい力を「**がまくんとかえるくんの気持ちを想像し、自分の言葉で伝え合おう**」としている。

第1時～第4時では、これまでに登場人物の行動や、会話に気をつけて読んだ経験をふりかえることで、その学習経験を生かして、本単元でも人物の行動や会話を読み取っていくことへの見通しを持たせたい。また初発の感想を交流したり、場面ごとに名前をつけたりすることで、物語の内容を捉える材料にしていく。

第5時～第9時には、場面ごとに読み深めていく時間を設定している。誰が何をしたのかを整理しながら学習を進めることで、がまくんとかえるくんの行動や様子の変化を捉えさせたい。また、この時に、物語の内容を捉えるとともに「もし、自分が登場人物だったら・・・」という視点で感想を持つように促したい。物語を少しでも自分に引きつけて考えることで、体験に結びついた自分だけの感想を持つことにつながり、また、それを友だちと交流することでそれぞれの感想を深めることができると考える。さらに気持ちの変化をとらえる上で考えさせたいのが、一場面と四場面の比較である。がまくんの家の玄関で手紙を待っているという行動は同じだが、二人の気持ちが全くちがう。その点に着目し、手紙を受け取る側ではないかえるくんも「かなしい気分」や「しあわせな気持ち」であることにも気づかせたい。そうすることで、二人の友だちとしての関係性に気づいてほしいと考える。

またこの単元を通して、2年生の学年実態に応じたICT機器活用にも取り組んでいきたい。活用の計画として、大きく3つの「ロイロノート・スクール」の使い方を考えている。

まず1つめは、初発の感想交流での活用である。自分の感想や友だちの感想を共有することで、自分の同じような考えの子の感想を見つけること、自分とはちがう視点で考えをもっている子の感想に着目することができる。そこで、物語の読みを広げたり、深めたりしながら、「みんなでこれから考え合っていきたいな」、という学習意欲を高められるようにしたい。

2つめは、前時のふりかえり交流において、子どもたちどうしの考えを比較すること、全体共有したい子の考えを紹

介することで活用することである。まずは、教師からの比較の提案や同じ言葉にこだわっている子の紹介など、視点を与えながらふりかえり交流を続けていくことで、いずれは自分たちで比較・検証していくことにつながる取り組みとしたい。

最後に、本時の活動でもおこなうそれぞれの考えの全体共有と、子どもたちが自ら選択して学びに向かうための全体共有としての活用である。これまで、友だちに自分の考えを伝えたり、聞いたりすることはペア活動を通して継続して取り組んできた。本單元では、自分の考えと学級全体の考えを一度につなげて見たり考えたりできるロイロノートの良さを生かして、友だちに自分の考えを伝えたり、聞いたりする活動の幅を学級全体に広げたい。本時の終盤では、一人ひとりが自分の考えをもち、他の子の考えを見ることで、「自分とちがう考えだから聞いてみよう」「自分と同じところで考えているな」「この子の考えを聞いてみたいな」と感じた子のところに移動して交流する時間をつくる。この時間を子どもたちが自らの選択で学びを広げたり、深めたりする時間にしていきたい。そして、その交流で得た気づきを自分の学びに返すためにふりかえりの活動を大切にしたい。

9. 単元の指導と評価の計画 (全12時間) ◎…記録に残す評価 ○…指導に生かす評価

時	主な学習内容	知技	思判表	主体	評価規準・評価方法
1	●範読を聞き、初発の感想を書く。			○	範読を聞いて、物語の感想をノートにまとめようとしている。 【主】〈ノート・行動観察〉
2	●初発の感想を交流する。 ・いいなと思ったところや、疑問に思ったことを確認する。 ・ロイロノートを使って感想を共有する。 ・本単元の「つきたい力」を確認し、ゴールを共有する。			○	初発の感想を伝え合おうとしている。 【主】〈ノート・ロイロノート・行動観察〉
3	●挿し絵を利用し、話を場面分けする。  ・挿し絵の並べ替えをする。(ロイロノート)〈ICT機器活用〉  ・本文の主語・述語を抜いたワークシートに適切な主語・述語を入れる。(ワークシート)	○① ◎②			語のまとまりや、言葉の響きに気を付けて音読している。 【知・技①】〈音読〉  文の中における主語と述語との関係に気付いている。 【知・技②】〈音読〉
4	●場面ごとに名前をつけ、物語の大体をとらえる。  ①がまくんがお手紙をまっている場面  ②かえるくんが、お手紙を書く場面		○②		場面の様子に着目して、登場人物の行動からお話のつながりを考えている。 【思・判・表②】 〈ロイロノート・行動観

	<p>③手紙をまつかえるくんと、あきらめているがまくんの場面</p> <p>④かえるくんがお手紙を書いたことを話し、二人でお手紙をまっている場面</p> <p>⑤かたつむりくんが、がまくんにお手紙をわたす場面</p>				察>
5	<p>●第一場面について考える。</p> <p>・お手紙を一度ももらったことがないがまくんの状況を理解し、二人の様子を読み取る。</p> <p>・がまくんとかえるくんの様子についてわかるところに線を引く。</p>	○①	○①		<p>語のまとまりや、言葉の響きに気を付けて音読している。 【知・技①】&lt;音読&gt;</p> <p>がまくんとかえるくんの様子わかる言葉を文章の中から選び、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。 【思・判・表①】 &lt;振り返り・発言&gt;</p>
6	<p>●第二場面について考える。</p> <p>前時のふりかえり交流 &lt;ICT機器活用&gt;</p> <p>・がまくんにお手紙を書こうといそぐかえるくんの様子から、がまくんへの気持ちを読み取る。</p>	○①	○②		<p>語のまとまりや、言葉の響きに気を付けて音読している。【知・技①】&lt;音読&gt;</p> <p>がまくんとかえるくんの様子わかる言葉を見つけ、文章と自分の体験とを結び付けて、感想を持っている。 【思・判・表②】 &lt;行動観察・発言&gt;</p>
7	<p>●第三場面について考える。</p> <p>前時のふりかえり交流 &lt;ICT機器活用&gt;</p> <p>・手紙を待つかえるくんと、お手紙を待つことを諦めているがまくんの気持ちを読み取る。</p>	◎①	○①		<p>語のまとまりや、言葉の響きに気を付けて音読している。 【知・技①】&lt;音読&gt;</p> <p>場面の様子に着目して、がまくんとかえるくんの行動を具体的に想像している 【思・判・表①】 &lt;ノート・行動観察&gt;</p>

8 本 時	<p>●第四場面について考える。</p> <p>・前時のふりかえり交流 〈ICT機器活用〉</p> <p>・かえるくんから手紙がとどくことを知ったがまくんの気持ちを読み取る。</p>	○①	◎①	<p>語のまとまりや、言葉の響きに気を付けて音読している。</p> <p>【知・技①】〈音読〉</p> <p>場面の様子に着目して、がまくんとかえるくんの行動を具体的に想像している。</p> <p>【思・判・表①】 〈ノート・行動観察・ロイロノート〉</p>	
9	<p>●第五場面について考える。</p> <p>・前時のふりかえり交流 〈ICT機器活用〉</p> <p>・四日たってかたつむりくんから手紙を受け取った二人の気持ちについて考える。</p>	◎①	○②	<p>語のまとまりや、言葉の響きに気を付けて音読している。</p> <p>【知・技①】〈音読〉</p> <p>文章の内容と自分の体験を結び付けて、感想を持っている。</p> <p>【思・判・表②】 〈振り返り・発言〉</p>	
10	<p>●終わりの感想を書く。</p>		◎②	<p>文章の内容と自分の体験を結び付けて、感想を持っている。</p> <p>【思・判・表②】〈振り返り・発言・ロイロノート〉</p>	
11	<p>●前時の感想を交流する。</p>			◎	<p>学習を振り返って、感じたことやわかったことを書こうとする。</p> <p>友だちの感想を進んで読みあったり、伝えようとしたりする。</p> <p>【主】〈ノート・ペア活動・行動観察・ロイロノート〉</p>
12	<p>●がまくんとかえるくんが登場するシリーズの作品を読み聞かせしたり、紹介したりする。</p>			○	<p>進んで物語の人物の気持ちについて想像を広げ、物語を読んで感想を伝え合おうとする。</p> <p>【主】〈ペア活動・行動観察〉</p>

10. 本時の展開 (8/12時間目)

(1) 本時の目標

- ・語のまとまりや、言葉の響きに気をつけて音読することができる。
- ・場面の様子に着目して、がまくんとかえるくんの行動を具体的に想像することができる。

(2) 本時の評価規準

- ・語のまとまりや、言葉の響きに気をつけて音読している。【知・技①】
- ・場面の様子に着目して、がまくんとかえるくんの行動を具体的に想像している。  
【思・判・表①】

(3) 展開

時	主な学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
5	1. 前時までの学習を振り返る。  2. 本時のめあてを確認する。		
25	がまくんとかえるくんについて考えよう。		
10	3. 四場面を音読する。 (全体→1人で音読)  ・四場面のがまくんとかえるくんについて考える。 (一人) (ペア)  4. 考えたことを全体で交流する。  5. 追発問について考える。	気づいた言葉に線を引いたり、ノートに考えを書いたりする。 ペアで交流する。  ペアで話したことや、ノートに書いたことを生かして、考えを伝え合う。	語のまとまりや、言葉の響きに気をつけて音読している。【知・技①】  (音読)
5	がまくんと、かえるくんについてみんなで考えてきて、がまくんの気持ちが一番大きく動いたところ(かわったところ)はどこだろう？		
5	・線を引いたところをロイロノートで提出する。 ・自分が聞いてみたい友だちのところに	線を引くことができた子から、提出箱に提出するように声かけをする。  友だちの考えを自分と比較しながら見るように声をかける。	場面の様子に着目して、がまくんとかえるくんの行動を具体的に

<p>聞きに行く。</p> <p>6. 全体で交流する。</p> <p>・自分のもった考えと、友だちの話を聞いて考えたことをふりかえりに書く。</p>	<p>自ら、誰のどこに行きたいかを決めて、聞きに行く活動がスムーズにいくように配慮する。</p> <p>全体で交流する。</p> <p>友だちの考えを聞きに行ったり、全体共有で話を聞いたりしたことで、自分の考えが変わったり深まったりしたことをふりかえりに書くよう、促す。</p>	<p>に想像している。</p> <p>【思・判・表①】 (ノート)</p>
---	---	---

(4) 本時における具体的な児童の状況 (※本時の評価規準に関わる場面において)

<p>おおむね満足できる状況 (B)</p>	<p>努力を要する状況 (C) への支援</p>
<p>・前時の音読で見つかった課題に対して、自分で課題設定をし、一人や、ペアで音読することができる。【知・技】</p> <p>・行動や会話を手がかりに、がまくんとかえるくんの気持ちを具体的に想像することができる。【思・判・表②】</p> <p>◎「ぼくの考えていたところと、〇〇さんの考えていたところは、同じでした。でも話を聞きに行ったら理由がちがいました。聞きに行ったらわかりました。」</p> <p>◎「わたしは、『ああ。』のところが一番がまくんの気持ちがかわったところだとおもいました。なぜかというと、『ああ』に、うれしい気持ちが入っていると思ったからです。」</p> <p>◎「ぼくは、『とてもしあわせな気持ちで、そこにすわっていました。』に線を引きました。しあわせな気持ちでって書いてあったからです。</p> <p>◎「ぼくは、『とてもしあわせな気持ちで、そこにすわっていました。』に線を引きました。しあわせな気持ちでって書いてあったからです。でも〇〇さんのところに聞きに行ったら、『ああ。』のほうがいいなと思いました。親愛なるがまがえるくんへの手紙を聞いて、がまくんの感動している様子が分かったからです。</p>	<p>・ペアの友だちに先に読んでもらって、真似してもいいことを伝える。【知・技】</p> <p>・がまくんとかえるくんの行動や会話を手がかりに、様子や気持ちを想像するように促す。【思・判・表②】</p> <p>具体的な声かけ ①(かえるくんのお手紙をがまくんはどんな顔でできているかな?想像してごらん。) ②(がまくんとかえるくんの会話文だけ先生と一緒に読んでみようか)</p> <p>◎ぼくは、〇〇さんのところに聞きに行きました。がまくんの気持ちが一番うごいたのは、『二人とも、とてもしあわせな気持ちで、そこにすわっていました。』ぼくも同じだと思いました。」</p> <p>◎ぼくは、さいしょはわからなかったけど、友だちの話を聞きに行ったり、ペアで考えたりしたらわかりました。</p>